

～相双保健所長からみなさまへ～

こんにちは。相双保健所の堀切です。

この地に赴任して、はや2年が経過しました。

振り返ってみますとやはり、記憶の大部分は新型コロナウイルス感染症への対応のことばかりで占められています。

感染者のご家族に検査を行ったり、施設や幼稚園、保育園に検体の採取のために伺ったり、クラスターの発生した施設を訪問して感染対策のご相談をお受けしたり、医師会の先生方と何度も話し合いの場を設けたり、と現場とのつながりを絶やすことなく活動をしてまいりました。また、連日に及ぶ、所員の聞き取り調査から、令和4年に入って、何らかの風邪症状が出現しているにもかかわらず、検査では陰性になり、少し日数が経過して初めて検査が陽性となる方が、それまではほぼ起こらなかった現象が増えていることに着目しました。このことは時が進むにつれて急速に増えていき、「検査では陰性だから感染していない」という考えが通用しない、ということ、令和4年度の日本公衆衛生学会で発表し、検査のあり方を見直すための提言を行いました。

コロナ関連業務のほかにも、令和4年の秋ごろからは、今まで中止や書面での開催となっていた、地域住民健康づくり協議会も、町村に伺って参画できるようになりました。引き続き、住民のみなさまの健康づくりに、お力添えしていきたいと考えています。

感染対策や健康づくりは、皆さまのご協力なしでは達成することができません。今後も、保健所の活動にご協力をお願い申し上げます。

令和5年3月31日